

2021年度 学校自己評価シート (浦和実業学園中学校・中高一貫部)

目指す学校像	「実学に勤め徳を養う」(校訓)に則り、円満な人格、健康な身体、豊かな教養を備え、勤労と責任を重んじる国家社会の有為な形成者を育成する。
--------	---

各学年の表記について…中学校1年生・2年生・3年生:「1年生・2年生・3年生」、高校1年生・2年生・3年生:「4年生・5年生・6年生」

重点項目	<p>1) クラス活動や行事を通じて、豊かな人間性と学校での好ましい人間関係づくりを推進する。(徳育)</p> <p>2) 実学教育の実践として行われている特色ある教育活動を通じて異文化理解を深め、学ぶ意欲を養う。(英語イマージョン教育の推進)</p> <p>3) きめ細かな学習指導により、基礎学力の定着と実践的学力の伸長を図る。(学力の向上)</p> <p>4) 6年間を見据えたキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの進路実現を図る。(進学実績の向上)</p> <p>5) 一貫部全教職員で生徒募集活動に積極的に取り組む。(募集定員の確保と受験者数の増加)</p>
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者
懇話会委員 5名
学校関係者 6名

学 校 自 己 評 価		2021年度評価			
年度目標		2021年度評価			
番号	現状と課題	具体的方策	達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<p>○「オアシス精神」はクラス間や個人差が見られるため、教職員自らが重要性を唱え、働きかけをし、定着させる必要がある。</p> <p>○コロナ禍により、これまで実施できていた行事が中止、変更を余儀なくされているが、感染防止に務め、可能な限り遂行する。</p> <p>○自己の考えの伝え方がわからず、他者とうまく共存できない生徒も存在するため、コミュニケーション能力を育成する取り組みを充実させていきたい。</p> <p>○部活動への積極的加入、いじめ・体罰の把握のためのアンケートを継続して実施する。</p>	<p>○「オアシス精神」の定着のため、教職員が積極的に声掛けをし、明るい雰囲気在校舎内に溢れるよう、生徒たちと語らう時間を増やすことに努める。</p> <p>○強歩大会、オリエンテーションキャンプ、教育旅行などに関して感染状況を注視しながら、内容を再考し、実施できるよう前向きに検討していく。</p> <p>○スクールライフの記入やエゴグラム診断の結果などを通じて自己を見つめ、かつ、発信できるような行動を促す。</p> <p>○いじめ・体罰アンケートは今年も実施する。</p>	<p>○今年度もコロナ禍により様々な行事が制約されていたが、可能な校外行事は密を避けながら行った。また緊急事態宣言が解除された10月以降は代替行事を実施してきた。以下に列記する。</p> <p>4月:強歩大会(約12kmの行程・1年生から5年生が参加)</p> <p>7月:1年生オリエンテーションキャンプ(九十九里・白子海岸にて。通常は入学式後に2泊3日で実施だが、1Dayに変更)</p> <p>10月:①3年生埼玉県内歴史探訪(「渋沢栄一コース・古墳コース・城コース」の3コースで実施。京都・奈良教育旅行の代替)</p> <p>②4年生タカフッシュインマザー牧場(マザー牧場でiPadを用いた協働学習。3年生での京都・奈良教育旅行中止に伴う代替)</p> <p>○中学校生徒会が中心となって、服のリサイクル運動「BRING」運動を展開し、キャリア教育にも繋がった。</p> <p>○校内の緑化を推進すべく、リラックス効果を高める目的から各階の出窓部分に観葉植物を設置した。</p>	B	<p>○6年間教育の一貫部では学年を越えての行事により教育効果が高まるため、中学生と高校生が一緒に取り組む行事を増やしていくことを検討したい。</p> <p>○紙媒体である「スクールライフ」とデジタル媒体である「Classi」をシーン毎にどう使い分けていくかの協議をしていくことが肝要である。</p> <p>○グローバル化が叫ばれて久しいが、本校ではネイティブ教員がおり、言語だけでなく、文化の違いを知ることが徳育の見地からも大変有益である。積極的に「相手」を知ることの重要性を訴えていきたい。</p>
2	<p>○開校以来の大きな柱である「英語イマージョン教育」はこれまで大きな成果をあげているが、一方で生徒個々の英語力に差が生じるという課題もある。解決に向けて全体の底上げを目指していかなければならない。</p> <p>○コロナ禍によりハワイ短期留学が中止となったため、生徒自身の英語力を試す場がなくなってしまった。代替措置として現地とのリモート授業を実施しているので、国際教育部と連携して内容を充実させる必要がある。</p>	<p>○英語の授業においては習熟度別分割授業を継続して実施し、能力の高い生徒には、より高度な内容を、苦手意識のある生徒には自信を持たせ、自発的に英語を話す機会を設ける。</p> <p>○実際にハワイで自らの英語力を試す機会には及ばないが、リモートによる現地とのコミュニケーションプログラムに積極的に参加させ、少しでも満足度を高め有意義な活動にする。また、検定科目の取得を推進することで目に見える形へと意識を変えさせていく。</p>	<p>○朝礼前に生徒自らがDJを務め、選曲した洋楽を流す校内放送「UJ radio」を再開させた。生徒たちの選曲のセトリストはClassiで保護者にも伝えている。</p> <p>○職員室前にあった洋書について、本棚などを設置し、気軽に手に取れる環境を整備した。読み物はネイティブ教員がレベルに応じて選書しており、貸し出しも可能としたため、英語に長けた生徒だけでなく、英語に興味を持ち始めた生徒などが借りている。</p> <p>○5年生のリポート授業は7月に、JALプログラムは2月に実施した。一貫コースのレベルに応じた内容にしたため生徒も概ね好評であった。</p>	B	<p>○6年生を除く、全ての学年でイマージョンクラスを実施しているが、英語に強い興味・関心を持つ生徒に海外大学への進学を視野に入れた指導も必要である。</p> <p>○コロナ禍により、ハワイ短期留学の代替行事としてリモート授業を行なったが、海外留学をしたいとの声が上がっている。イマージョン教育を実践している一貫部では海外留学ができるシステムを構築していきたい。</p>
3	<p>○「学びに向かう力・人間性」、「思考力、判断力、表現力」、「知識及び技能」などの学習指導要領の三つの柱を身に付けさせる授業を実践することが肝要である。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びを育成させるためにアクティブラーニングの視点からICT機器を有効に利用する必要がある。</p> <p>○放課後の自習室利用者の増加による監督教員の働き方を再考する時期にある。</p>	<p>○外部の教員研修会にオンラインでもよいので積極的に参加し、その内容を時には教科の垣根を超えて、共有し、授業に生かしていくように努める。</p> <p>○1年生、4年生に6月よりiPadが導入された。授業の中身も大きく変化するので、勉強会を行いながら、授業力のスキルアップを目指す。</p> <p>○放課後の学習体制を見直す工夫を行う。</p>	<p>○1年生、4年生にiPadが導入されたことは、学習指導の広がりでなく生徒理解の一助ともなり、教員側の新たな気づきに効果をもたらした。</p> <p>○放課後のアドバイス補習(中学校)は2・3年生で英数国の3教科を実施し、延べ147名が受講した。</p> <p>○自習室の利用は高校生だけでなく中学生も利用したいとの希望があり、ルールを設け、実施した。</p>	A	<p>○6年生を除いた全ての学年でiPadを導入することになった。生徒だけでなく教員への有効な利用法や活用の仕方について研修を行なっていきたい。</p> <p>○放課後の学習スタイルを刷新し、「放課後学習支援システム「学びPlus」」を導入した。2022年5月から本格的に運用している。生徒個々の学習効果をUPさせるため、学びPlusスタッフと情報共有をしていきたい。</p>
4	<p>○ここ2年間、国公立大学、難関私立大学合格者数が伸び悩んでいる。進学実績の向上は必須課題であるため、現状を重く受け止め、飛躍を遂げる方策を教職員全体で考えなければならない。</p> <p>○職業体験など昨年に引き続き、コロナ禍により、多くの制限を受けることが予想される。</p>	<p>○12期生の進学実績向上のため、成績委員会等を通じて、全教員で一人ひとりの生徒の学力を把握し、効果的な進学指導ができるように努める。</p> <p>○オンラインで職業体験ができる講座や、講演を精査し、少しでも社会に向かう姿勢を身に付けさせていきたい。</p>	<p>○一貫部では「Turn-Q」と名付けた探究学習を推進しているが、今年度もコロナ禍により制約の中で次の行事を実施した。</p> <p>【7月】2年生福祉学習発表会 【11月】①1年生～3年生探究学習発表会 ②1年生～6年生「プロランナー川内優輝氏」講演会 【12月】3年生「先輩インタビュー」(本校卒業生が来校し、インタビュー形式での進路学習)</p> <p>○12期生は在籍35名ながら、京都大、北海道大2名を初めとする国公立大に7名、早稲田、慶応、東京理科、GMARCHの難関私大に24名など、素晴らしい実績を残してくれた。何より後輩たちのモチベーションに繋がった。</p>	A	<p>○12期生の進学実績は大変素晴らしく、大学合格数に関して、一貫部の雰囲気が高まりをもたらしてくれた。良好の要因を分析し、在校生や保護者に伝え、意識の向上を計りたい。</p> <p>○コロナ禍での職業体験に関しても知見を得てきたので、より効果の上がる体験を選定していきたい。</p>
5	<p>○入学者増に繋げるには在校生、並びに保護者の意見に耳を傾け、寄り添い、変えることができるものは変えていくことが肝要である。この大事な点を教職員が改めて理解する必要がある。</p> <p>○コロナ禍による私立中学校の人気、及び川口市立高等学校附属中学校の開校は受験者数増加に繋がったので、入学者が増えるようイベントや説明会を工夫する。</p>	<p>○一貫部父母の役員や受験を終えた中学校1年生の保護者を中心に積極的に意見を聞き、具現化していく。重要なことは聞き放しにせず、進捗状況や結果をClassiやGoogleフォームなどを用いて周知していく。</p> <p>○「英語であそぼう」、「算数講座」などは募集活動に大きく関わっているので、これらのイベントをキャッチャーな総称とし、より効果的に訴求していく。また、川口リリアにて8月14日に説明会を実施する。</p>	<p>○「英語であそぼう」、「算数講座」などに、今年度は「作文添削講座」と「生物部体験」を加え、一連の講座を「OPEN SATURDAY」と名付けて展開した。各講座の回数、参加延べ人数は以下の通りである。</p> <p>「英語であそぼう」:全4回・26名、「算数講座」:全5回・86名、「作文添削講座」:全3回・30名、「生物部体験」:全3回・30名</p> <p>○12月11日現在での説明会の参加人数は以下の通りである。「学校説明会」(1)～(5)延べ1,141名、「入試問題学習会」(1):説明会のみ51名、適性40名、2科115名</p> <p>○外部説明会は8月に「川口リリア」、11月に「越谷コミュニティセンター」赤羽会館」で実施した。訴求効果が高いので継続したい。</p>	B	<p>○2022年度入試より英語・算数・国語の3教科入試を加えて実施し、多様化を図ったが、問題のレベルをうまく伝えきれなかったため、期待していたほどの受験者増加には至らなかった。次年度は効果的にアナウンスをしていきたい。</p> <p>○出願者の延べ数は前年比115.6%と増加したが、入学者数は63名(前年61名)と微増であった。入学者増につながる工夫をさらに模索していきたい。</p>

学校関係者評価
実施日 2022年6月18日
意見・要望・評価など
<p>○中学校全クラスにネイティブ教員が副担任として配属されているのは非常にありがたい。可能であれば高校一貫コースにも配属してほしい。</p> <p>○担任の先生がClassiでこまめに返信してくれるので驚いている。逆に負担をかけ過ぎているのではと心配している。</p> <p>○Classiで学習時間を入力するシステムは「見える化」によってモチベーションにつながっている。</p>
<p>○身内に留学した子がいて、非常に貴重な経験でこれからの進路を考える上でプラスになったと話していた。海外留学の道筋をつける試みは評価したい。</p>
<p>○「学びPlus」はアウトソーシングによって先生方に負担をかけずに生徒の学力向上に結び付いているので非常に効果的なシステムだと思う。</p>
<p>○京都大学現役合格や北海道大学2名合格等、一貫コースとして素晴らしい結果を残せたことに自信をもっていただいて、後輩の皆さんは是非続いてほしい。</p>
<p>○兄弟で入学される方がとても多い。先生方が一人ひとりの名前をすぐに覚え、寄り添っていただいていることに対する保護者の評価だと感じている。</p>